



都市形成史研究の基礎

-第一回：史料の収集と活用の実践-

2019年度スタートアップゼミ

2019/05/09

小林 里瑳 (M2)

図：1866年（慶應二年）頃の道後温泉本館周辺 道後温泉本館調査委員会編『道後温泉本館の歴史』，松山市，(1994)

今日の内容

~~主に2年弱やってきた自分の研究の話をします~~

• 都市形成史研究の基礎

1. 史料の種類
2. 史料収集の指針について
3. 史料の扱い方 ～小林の場合：デジタル化編
4. 分析の方法
5. まとめ

今日の目標

- ① 史料の収集指針（の一例）を知る
- ② 収集した史料の扱い方の例として、デジタル化のプロセスを知る
- ③ デジタル化した史料の分析の方法を知る

「歴史分析はそんなに…」な人も都市のより良い理解のために使える話があるかもしれません

はじめに

都市形成史分析の何が大事なの？

- 都市に対する分析の質が，研究成果や設計・提案のクオリティを大きく左右する (基礎プロやコンペで皆さん感じていると思います)
- 分析の質：切り口が優れているだけじゃなくて，**独創的な史料・データ**を取ってこれるかも問われる
- 歴史研究では「誰も手を付けていない史料」を発見することも学術的に評価される

具体的にどんな史料があるのか

沈黙史料

建築、土木建造物
そのもの（もしくは
遺構）

発言史料

無形

有形

伝承史料

グラフィック史料

キャラクター史料

風俗、習慣、行事、地名、
字名、音声など

地図、絵図、絵画、図面、
写真、映像など

文書、記録、文学作品、
紀行、日記、帳簿、議事録、
新聞など

建築史家である玉井哲雄の史料分類を参考に作成

具体的にどんな史料があるのか

都市形成史研究で
主に使う史料

沈黙史料

建築、土木建造物
そのもの（もしくは
遺構）

発言史料

無形

有形

伝承史料

グラフィック史料

キャラクタ史料

風俗、習慣、行事、地名、字名、音声など

地図、絵図、絵画、図面、写真、映像など

文書、記録、文学作品、紀行、日記、帳簿、議事録、新聞など

建築史家である玉井哲雄の史料分類を参考に作成

具体的にどんな史料があるのか

都市形成史研究で
主に使う史料

沈黙史料

建築、土木建造物
そのもの（もしくは
遺構）

発言史料

無形

有形

伝承史料

グラフィック史料

キャラクタ史料

風俗、習慣、行事、地名、字名、音声など

地図、絵図、絵画、図面、写真、映像など

文書、記録、文学作品、紀行、日記、帳簿、議

明らかにしたいことによって史料の重要度が異なる

建築史家である玉井哲雄の史料分類を参考に作成

どうやって見定めていくのか？

史料収集の方針

- まず分析のベースとするデータを決める必要がある

レイヤー分析をする際どの地図をベースにするか？を考えるのと同じ。

例：山本(2018年度修士論文)は国土地理院発行地図を基礎資料に，鉄道路線や駅の位置，宅地の拡大状況などを書き込んでいる

→宅地の位置や地形，鉄道や道路などのインフラが書き込まれている＋地理院地図なので比較的正確な地図である

図：気仙沼市の宅地拡大プロセス。国土地理院発行1/25000地形図，1/50000地形図，地理院地図をベースにしている（山本正太郎作成）

史料収集の方針：小林の場合

「都市の空間を変えていく一番の基礎になる”土地”に関する分析をやりたい」

【重視したポイント】

1. 一次史料である（次回詳しく説明します）
2. 全国一律のフォーマットで作成されている
∵都市間での比較がやり易くなる
3. データへのアクセスが容易
∵再現性の観点から望ましい
4. 作成の経緯が明確になっている
∵データの特徴をつかみやすい
5. ローコストで取得可能
∵最小限の時間／お金で研究をやる必要性
6. (+ a) 数量化しやすい
∵羽藤研の研究蓄積を活かせる

史料収集の方針：小林の場合

「都市の空間を変えていく一番の基礎になる”土地”に関する分析をやりたい」

【重視したポイント】

1. 一次史料である（次回詳しく説明します）
2. 全国一律のフォーマットで作成されている
∵都市間での比較がやり易くなる
3. データへのアクセスが容易
∵再現性の観点から望ましい
4. 作成の経緯が明確になっている
∵データの特徴をつかみやすい
5. ローコストで取得可能
∵最小限の時間／お金で研究をやる必要性
6. (+α) 数量化しやすい

汎用性が高く、出自が明確なデータ

具体的にどんな史料があるのか

都市形成史研究で
主に使う史料

沈黙史料

建築、土木建造物
そのもの（もしくは
遺構）

発言史料

無形

有形

伝承史料

グラフィック史料

キャラクタ史料

風俗、習慣、行事、地名、字名、音声など

地図、絵図、絵画、図面、写真、映像など

文書、記録、文学作品、紀行、日記、帳簿、議事録、新聞など

建築史家である玉井哲雄の史料分類を参考に作成

具体的にどんな史料があるのか

都市形成史研究で
主に使う史料

沈黙史料

建築、土木建造物
そのもの（もしくは
遺構）

発言史料

無形

有形

伝承史料

グラフィック史料

キャラクタ史料

風俗、習慣、行事、地名、字名、音声など

地図、絵図、絵画、図面、写真、映像など

文書、記録、文学作品、紀行、日記、**帳簿**、議

旧土地台帳をベースデータに使う

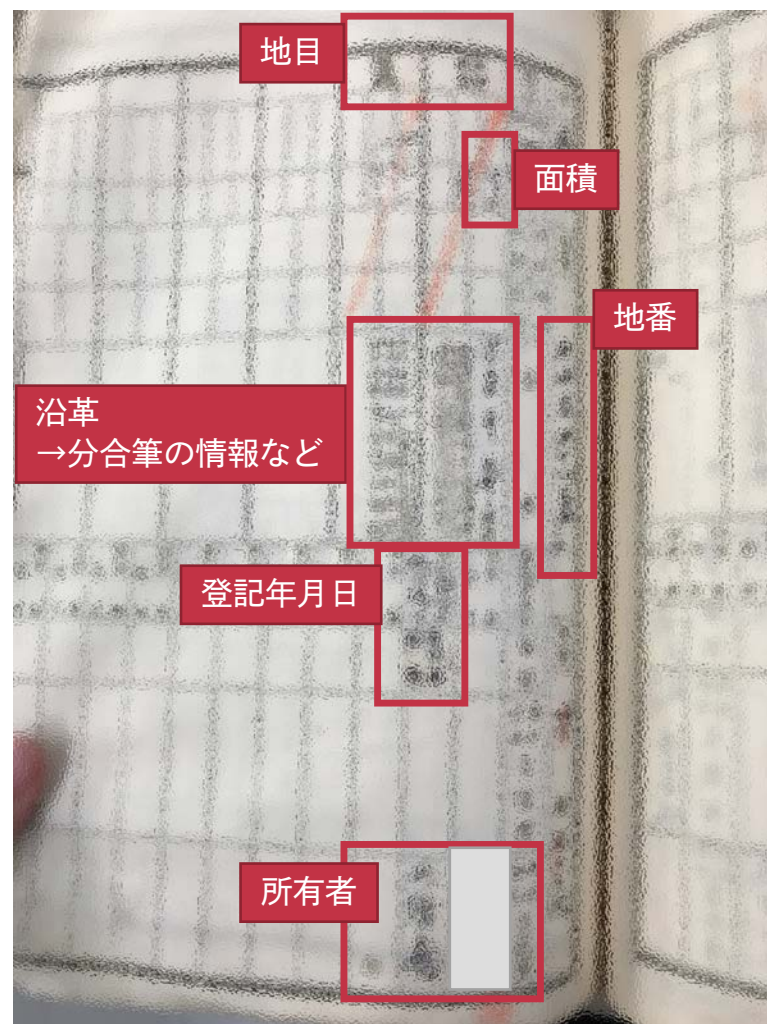
建築史家である玉井哲雄の史料分類を参考に作成

旧土地台帳とは？

地租 = 現在の固定資産税の徴収を目的に、土地の面積や所有者、地価を地番ごとに記録した台帳

データ概要

対象年代	明治22年(1889)～昭和34年(1959)	
集計目的	地租徴収の根拠	
集計項目	付属図面 対応項目	字・地番・地目・面積*(反別反) ・課税標準(地価円)・等級**
	沿革	分筆合筆時期・対応地番, 法改正に伴う地租算出方法の変更・時期を記載
	下段	所有者名・所有者住所 事故・登記年月日



旧土地台帳の一部（松山市法務局蔵，2017/12/19撮影，プライバシー保護のため一部画像を加工しています）

参考文献：鮫島信行『日本の地籍：その歴史と展望』，古今書院，2011.3

实例

近代地方都市における 土地所有メカニズムの基礎的分析

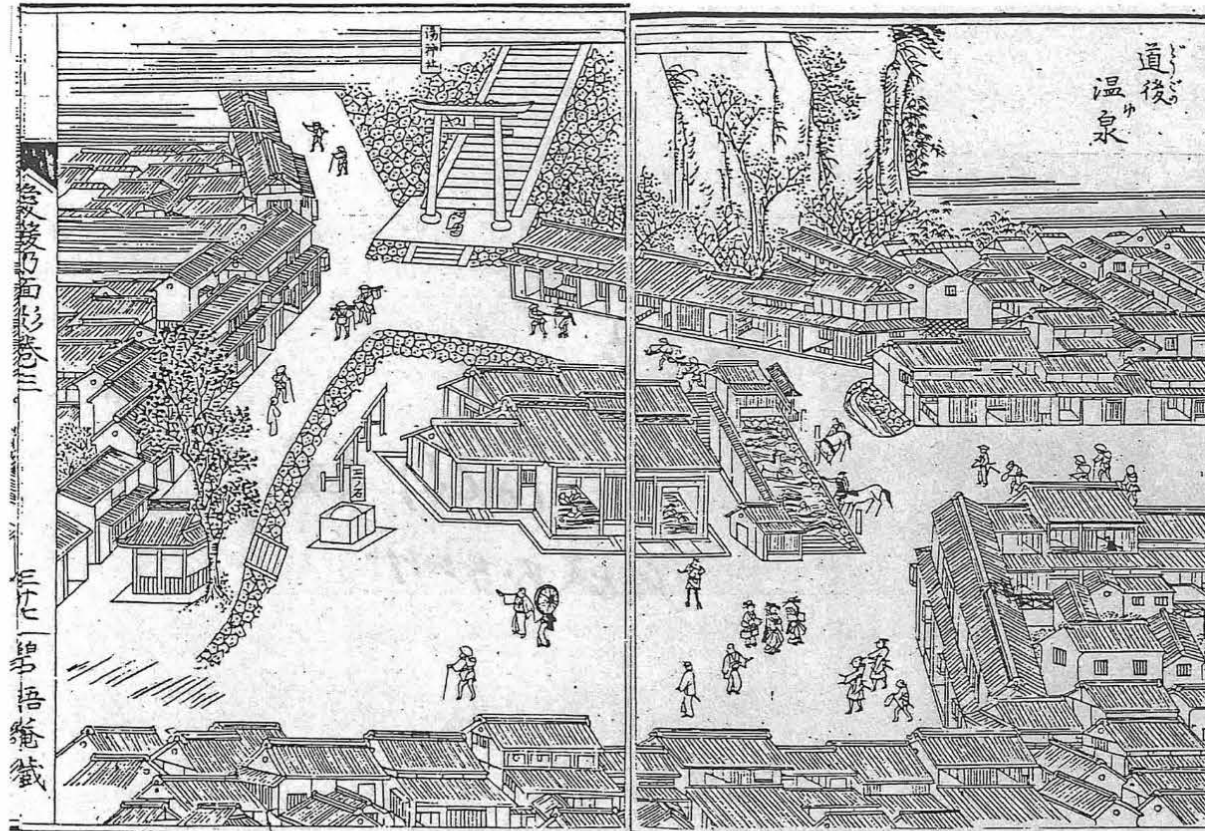
-明治期から昭和期における道後温泉地域を対象に-

An analysis of the relationship between turnover and the special transformation by the morphology of the land and by the landownership
- A case study of Dogo district in Meiji and Showa period -

背景と目的

「近代以前より既成の温泉地は外的交流の中で変化」

「都市形成の過程は基本単位となる**土地の変化**の結果」

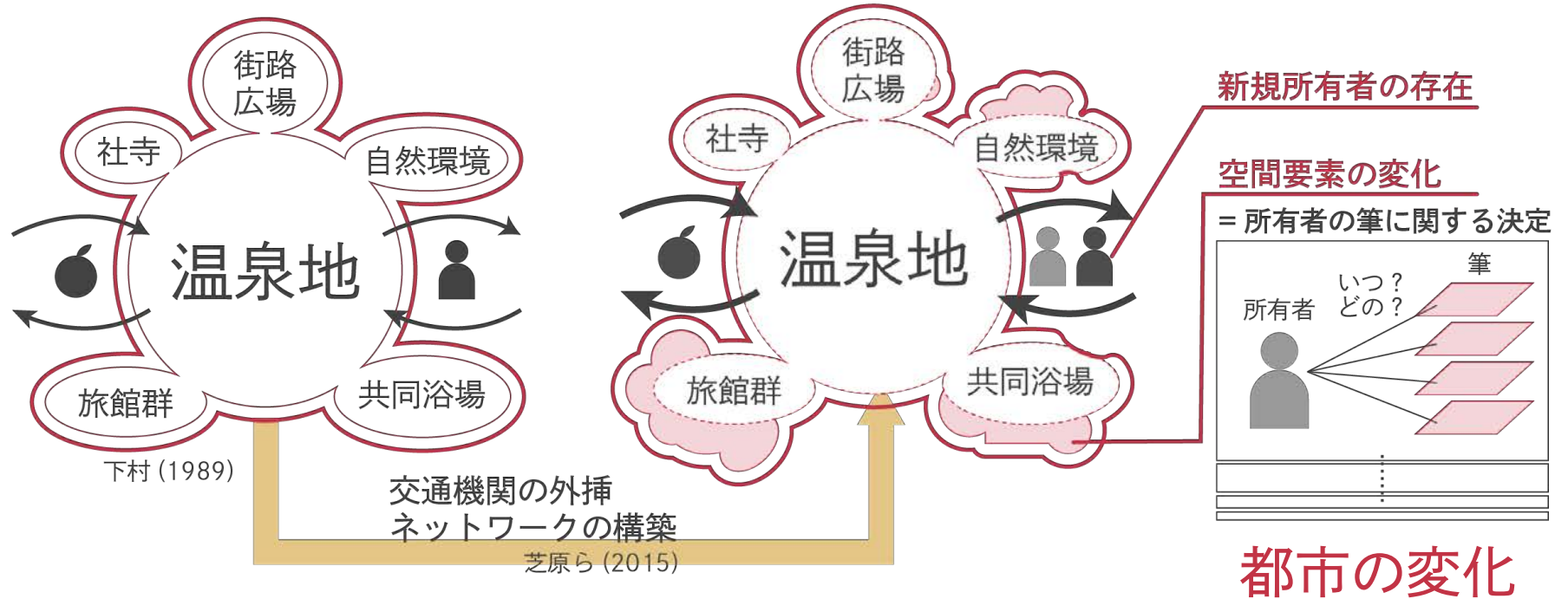


図：1866年（慶應二年）頃の道後温泉本館周辺 道後温泉本館調査委員会編『道後温泉本館の歴史』，松山市，(1994)

背景と目的

「近代以前より既成の温泉地は外的交流の中で変化」

「都市形成の過程は基本単位となる**土地の変化**の結果」



本研究の目的

- ①筆スケールの土地の変化がもたらす都市の空間変容
- ②土地所有者の新陳代謝現象
- ③ネットワーク上での土地所有状態の変遷と空間への影響

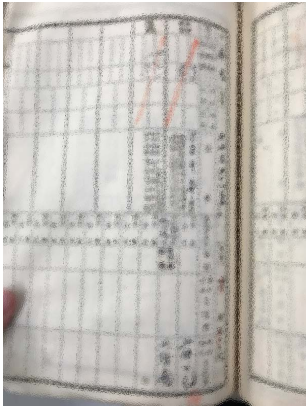
を明らかにする

研究の手法

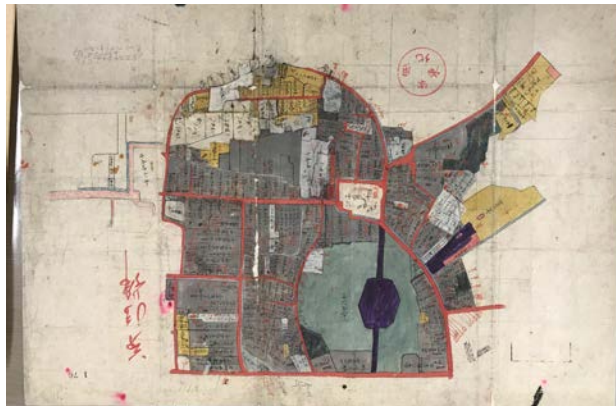
文献による調査とデータ化した非集計史料を統合する

非集計的史料

旧土地台帳 ▶ 数量化



旧土地台帳付属地図 ▶ 図面化



任意の単位で集計、非集計分析

より具体的
現象を考察

文献資料

郷土史・企業史

松山市史、道後温泉史関連書籍、
『伊予鉄道百年史』『大阪商船株式会社五十年史』等

地図資料

観光案内図(1948)
住宅地図(1953/1957)

公文書

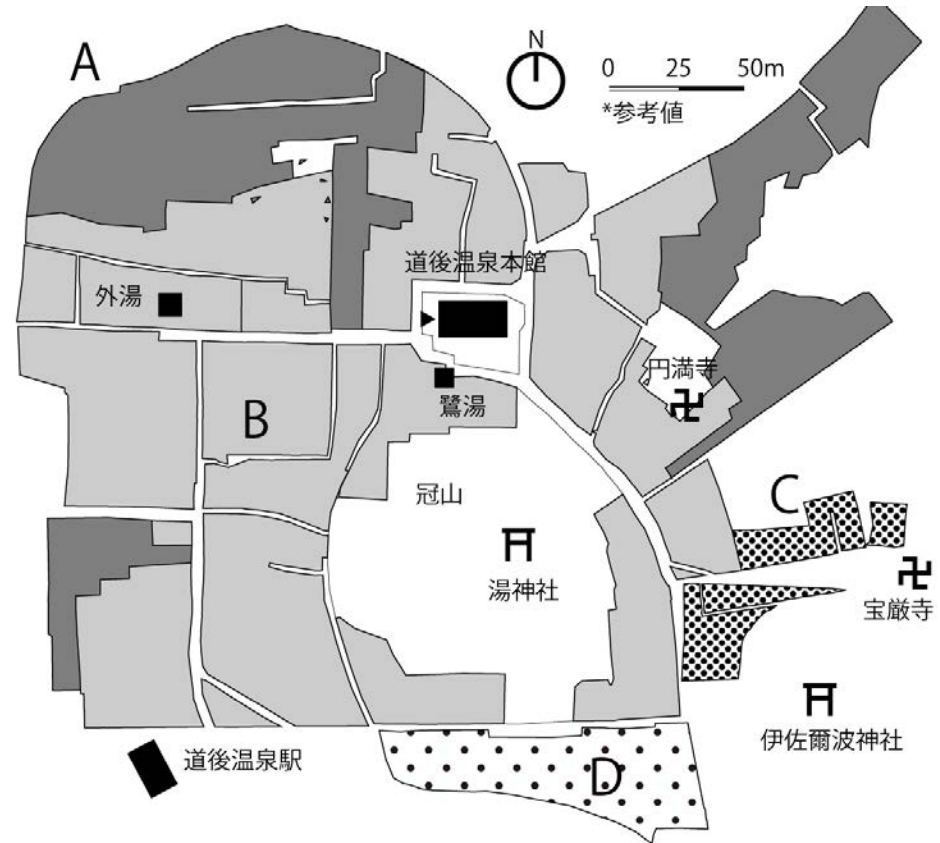
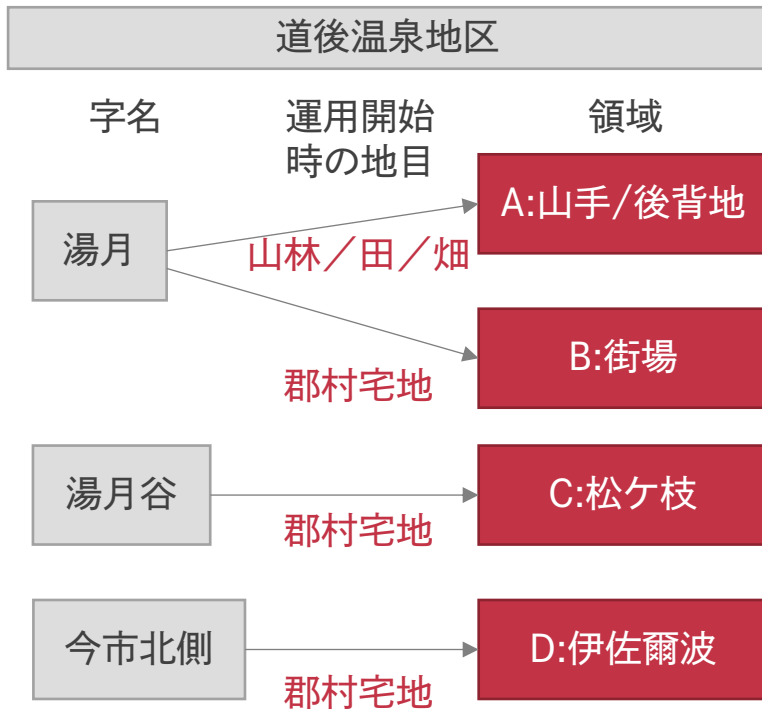
道路工事図面(1916~1919) や基本調査(1889)など
道後温泉事務所保管の財産区時代の一次史料

対象範囲：道後温泉地域

●対象年代

明治22年(1889)～昭和34年(1959)の
71年間

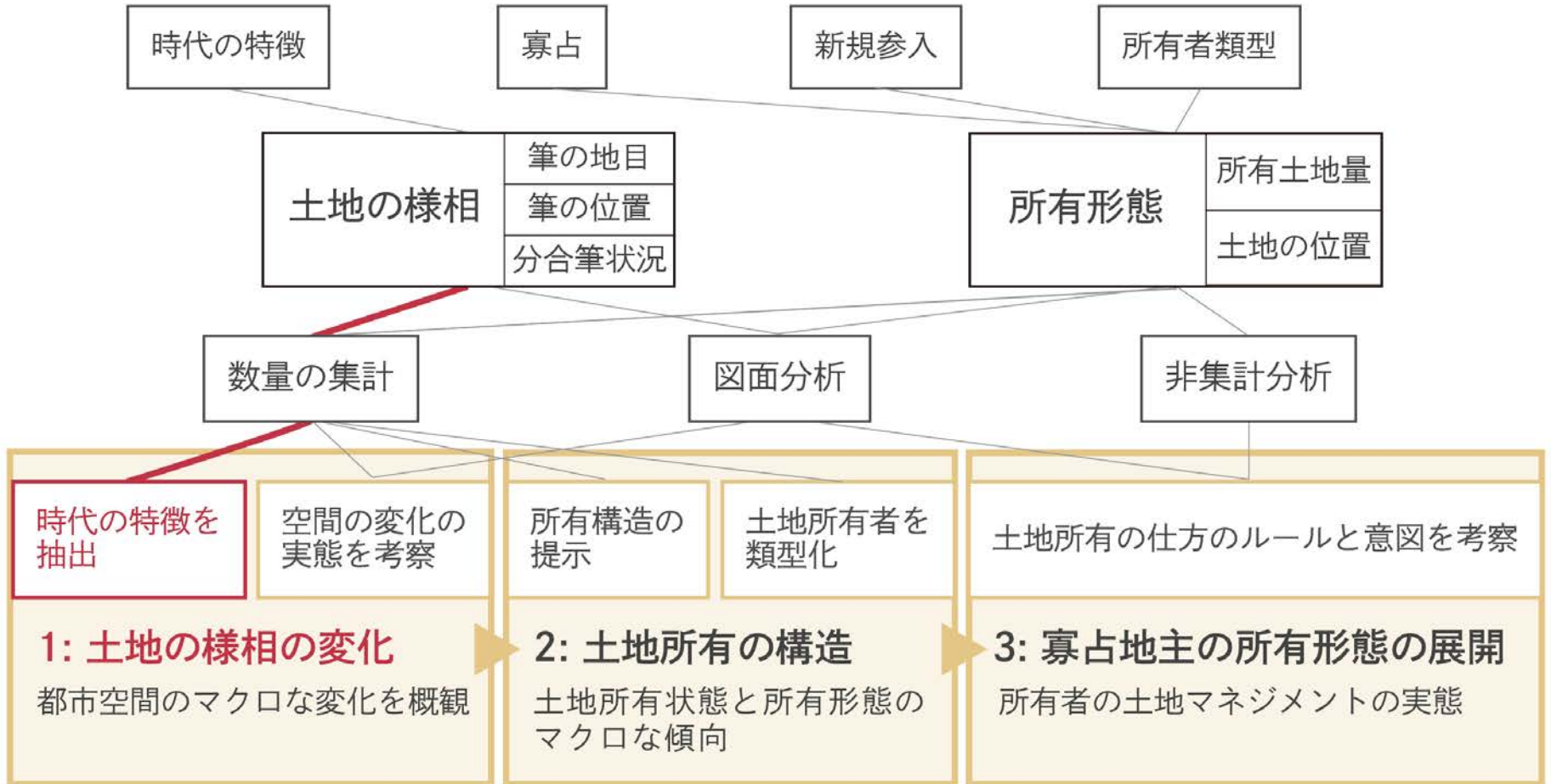
●領域の設定：現在の道後温泉地区を
1889年時点の字と地目から4つの領
域に区分



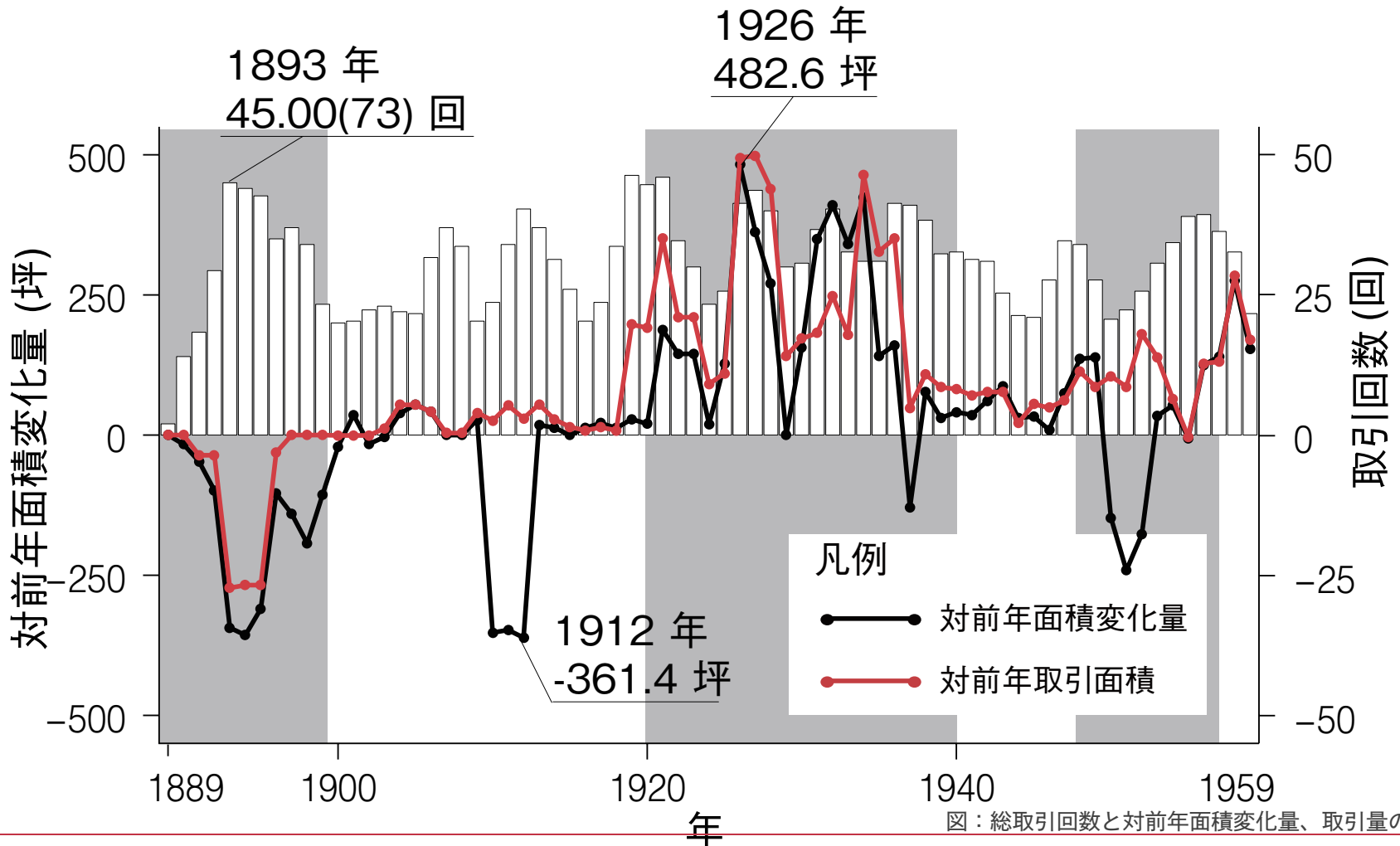
【凡例】

字	湯月	湯月谷	今市北
領域	■ A: 山手/後背地 地目: 田畑, 山林	▨ C: 松ヶ枝 地目: 郡村宅地 (遊郭)	□ D: 伊佐爾波 地目: 郡村宅地 (旅館, 料亭)
	■ B: 街場 地目: 郡村宅地 (旅館, 料亭など)		

図：トレース後分析に用いた図面と領域区分



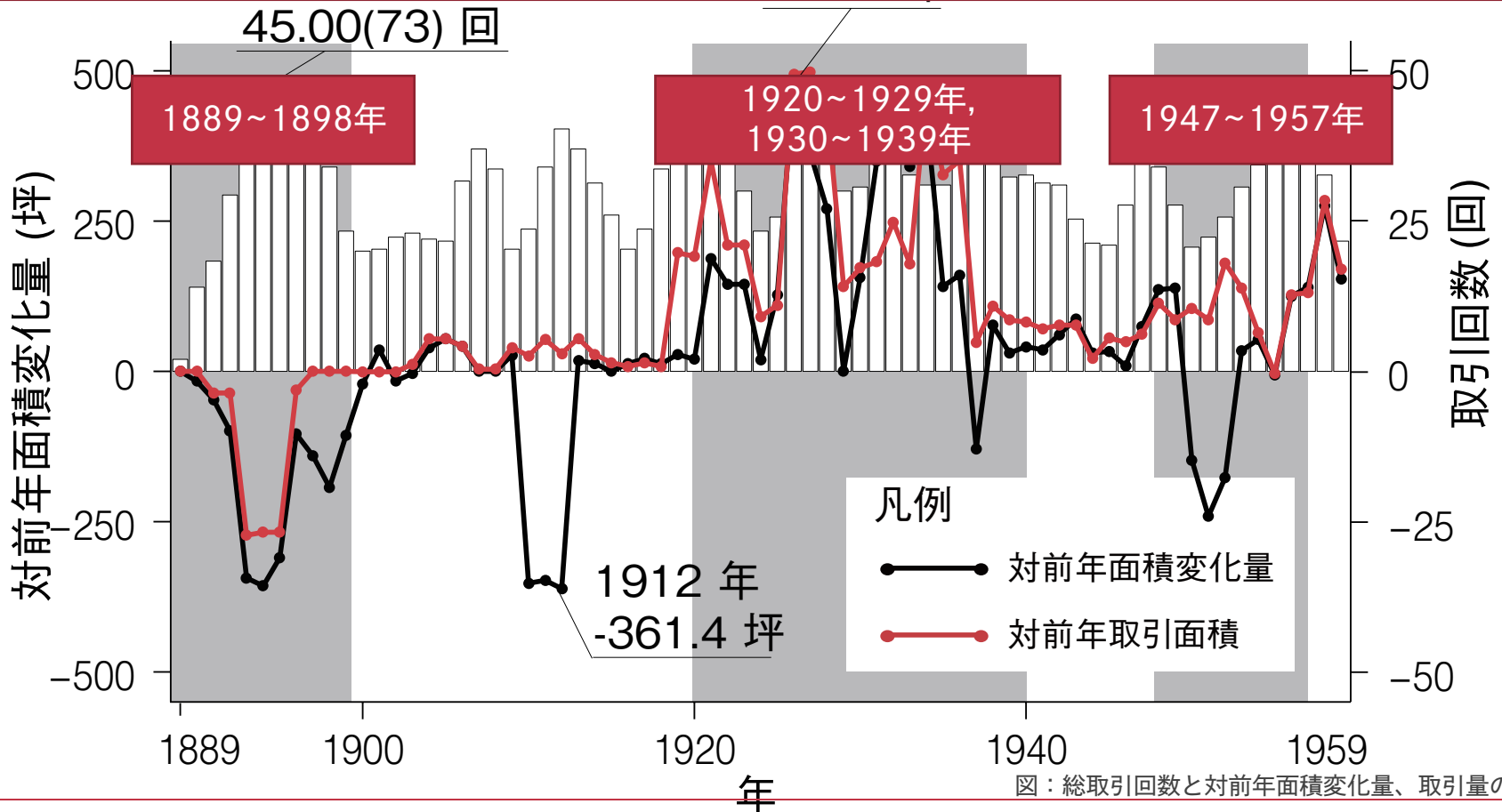
1-1: 土地取引の活度と変化の時間的分布



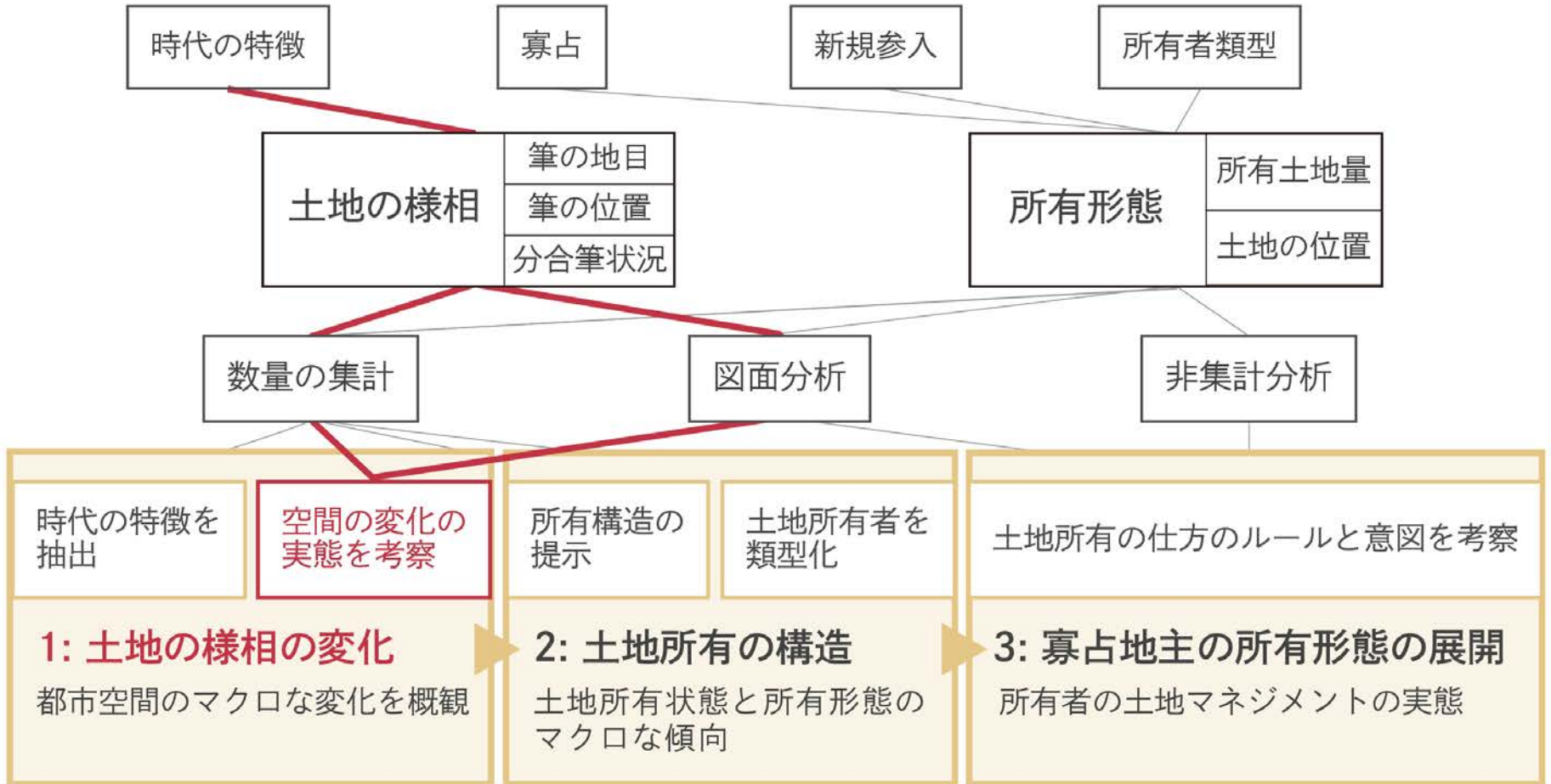
地域の土地取引：常態的に発生
土地の分筆合筆：特定の時期に集中している。

1-1: 土地取引の活度と変化の時間的分布

特徴的な時代のあたりをつける



地域の土地取引：常態的に発生
土地の分筆合筆：特定の時期に集中している。



取引の発生時期と位置

分筆合筆が集中する時期毎に、変化の特徴を明らかにする

20坪以上の分筆



街場の分合筆

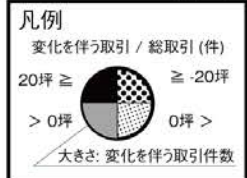
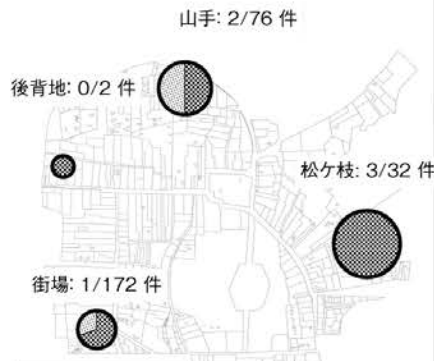


山手の分合筆



街場, 伊佐爾波の分合筆

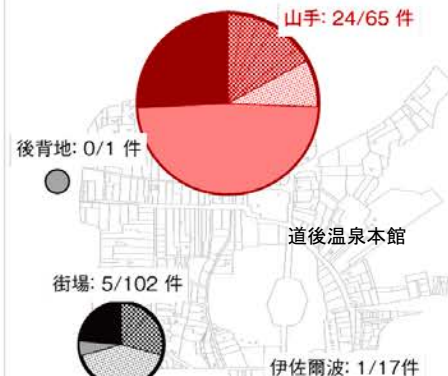
1889年-1898年



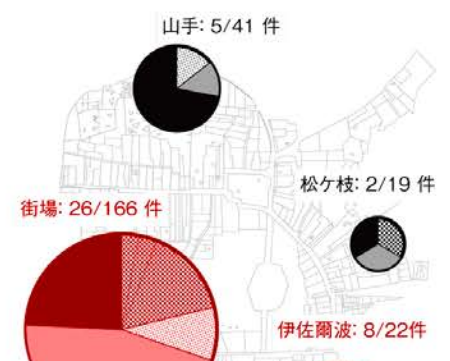
1920-1929年



1930-1939年



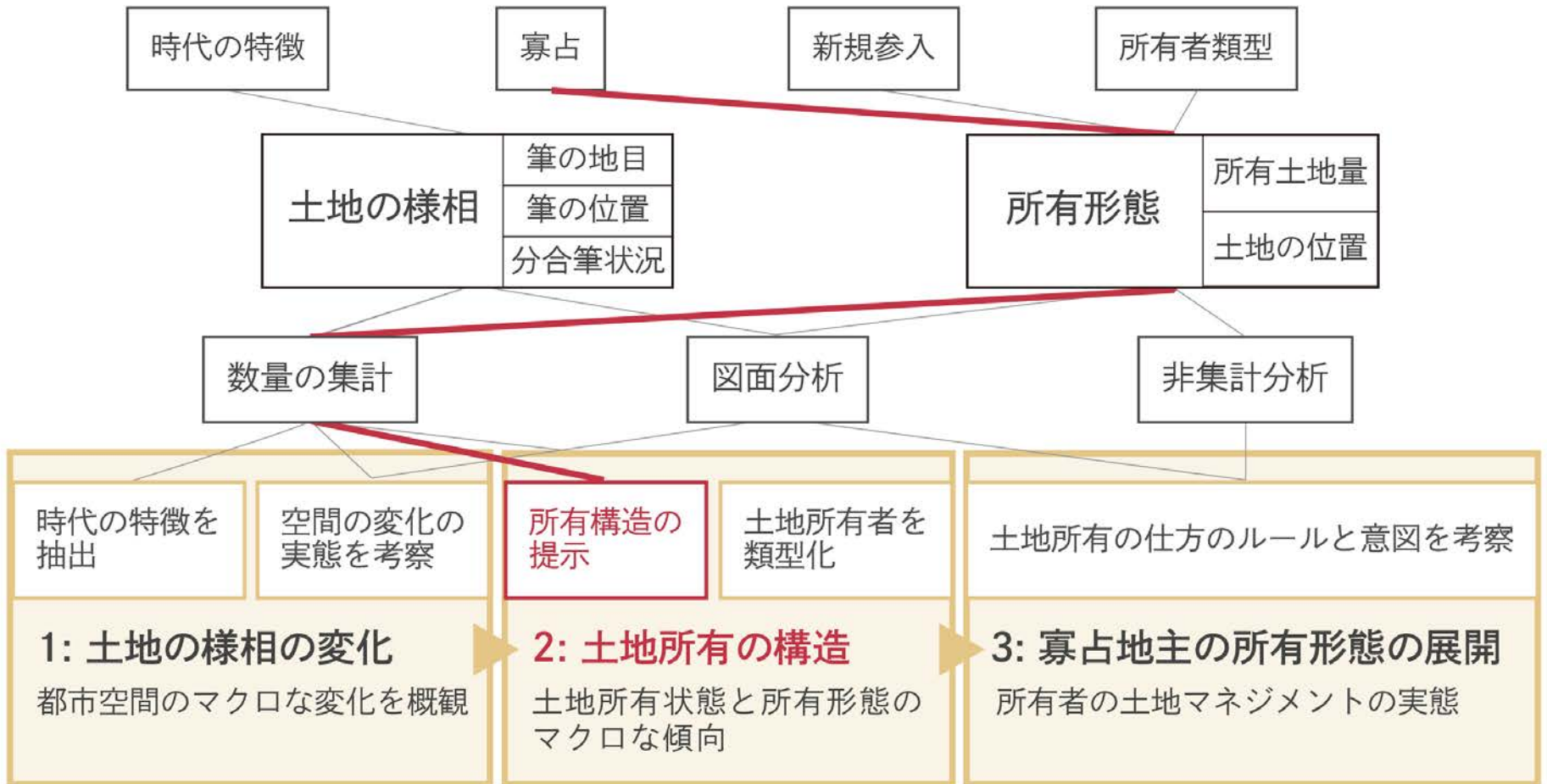
1947-1957年



町長を含む複数人の所有
 + 個人への「払下」

山手で新たな道路ネット
 ワークの形成

集中的な分筆合筆 → (区画整理事業, 耕地整理に類する動き) → 基盤の形成



2-1: 家ごとの所有土地量分布

●分析手法

明治中期～昭和中期 = 民法上で家制度が規定されている
→土地の所有は「家」の要因が強いのではないか？



集計の単位：同一苗字の「家」に設定
→284家を集計の対象

●分析結果 右図参照

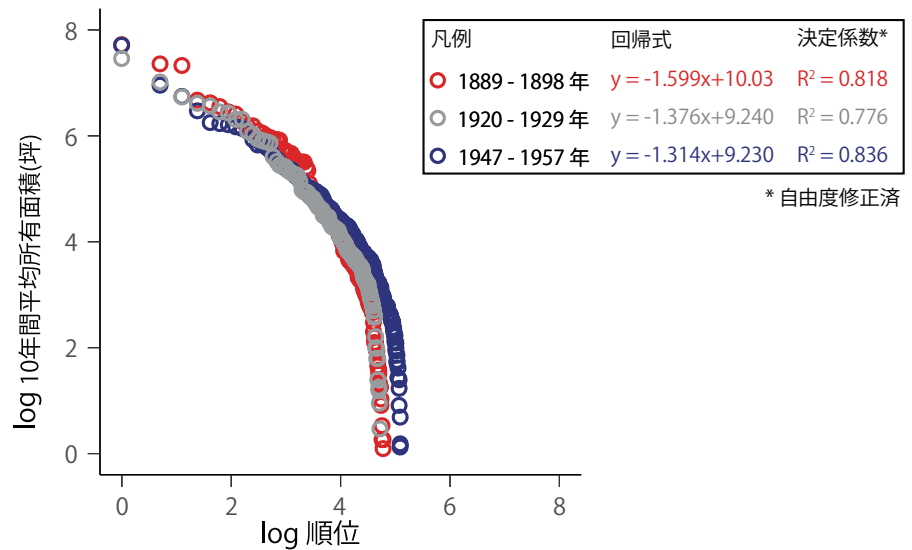
家ごとの**所有土地量と家順位にランクサイズ**
ルールに近い状態が成立→Zipf 則を仮定



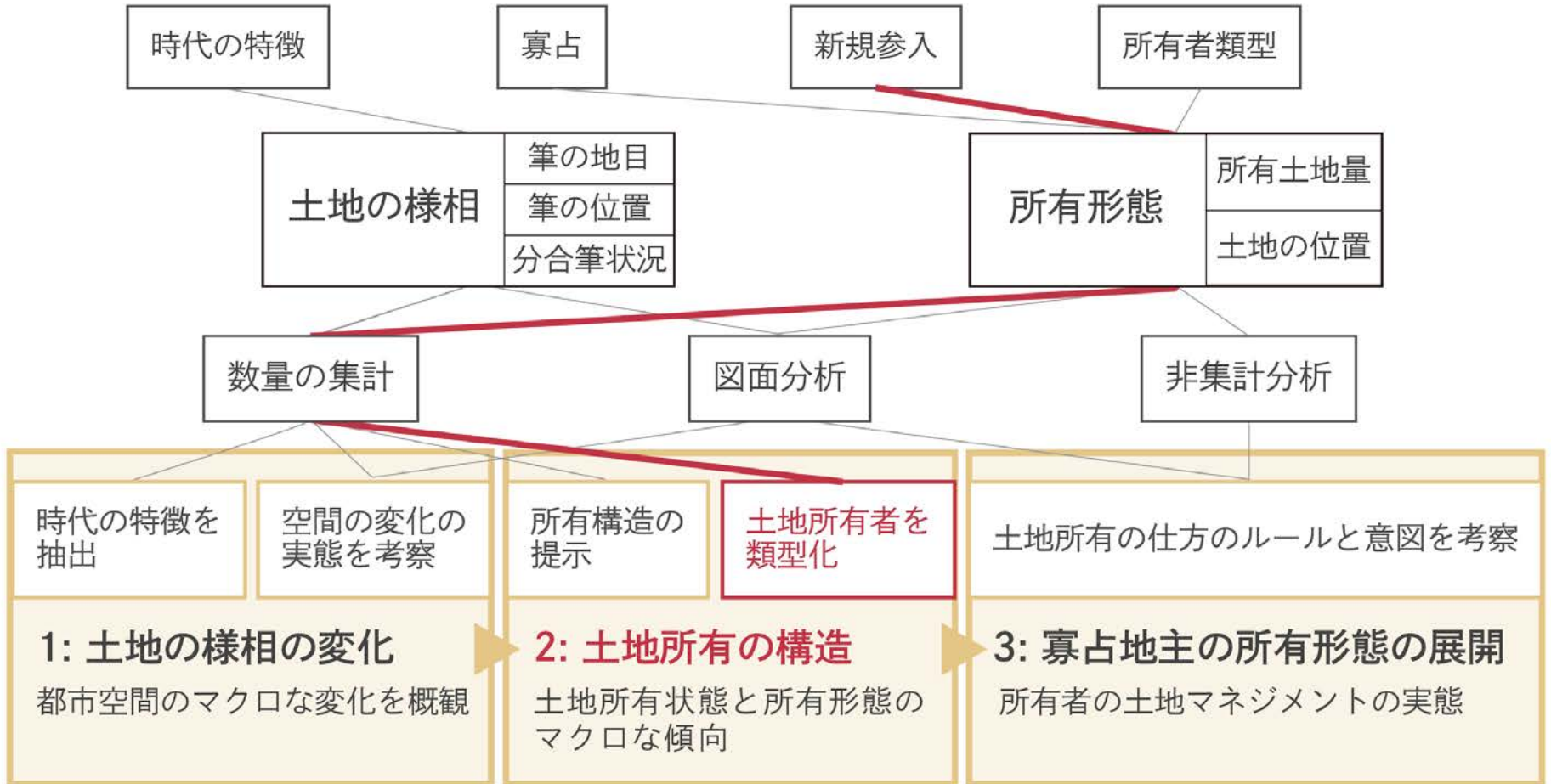
「上位地主」：各年代における所有面積の累積比率が80%以内の地主 と定義

- *土地を寡占している上位地主の取引が温泉地全体の状態に与える影響を考慮する必要がある
- *長期に渡って土地を所有する上位地主と、短期の所有に留まる上位地主は取引のパターンが異なると考えられる

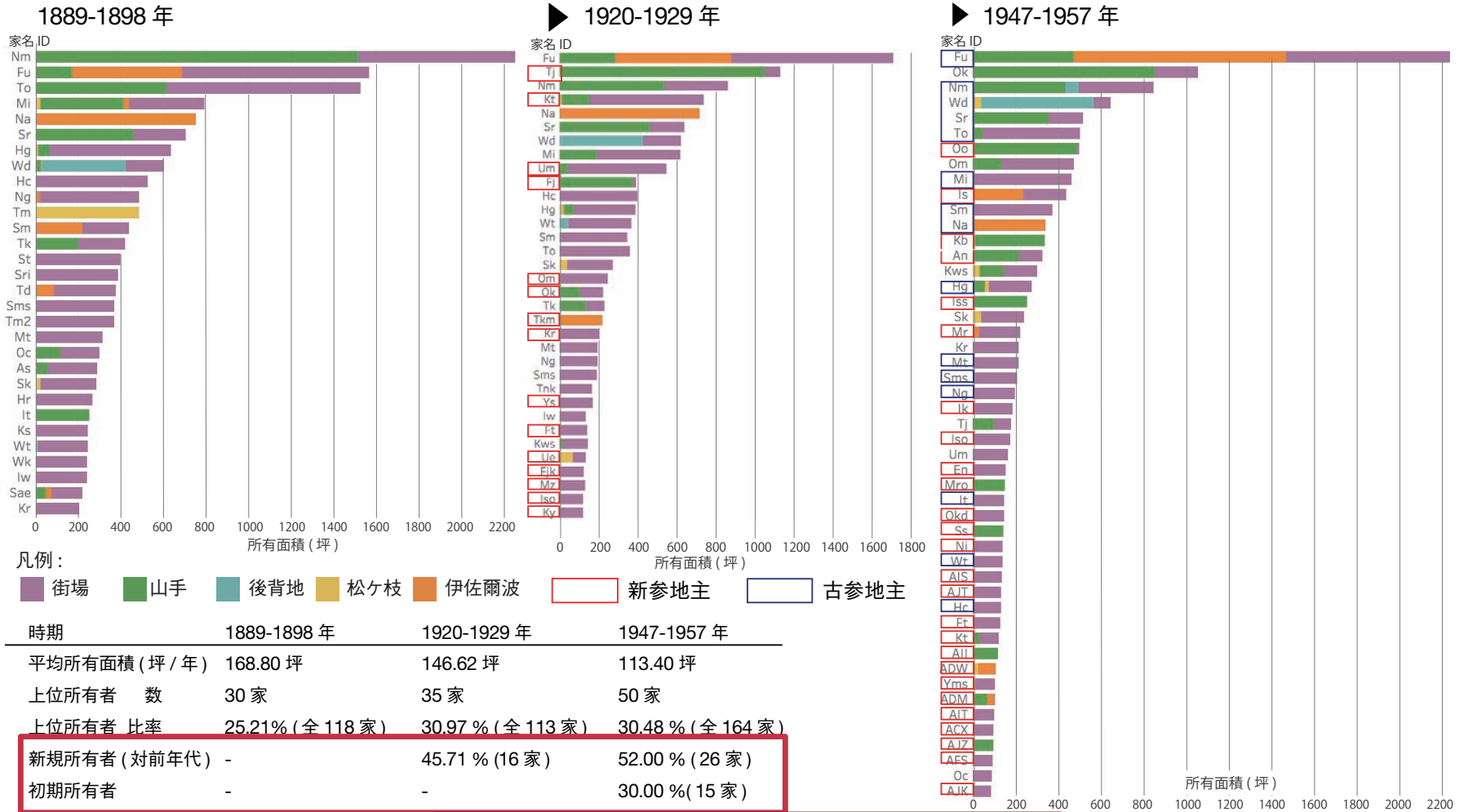
所有面積順位の変動を基に上位地主を類型化し、類型ごとの土地所有パターンを明らかにする



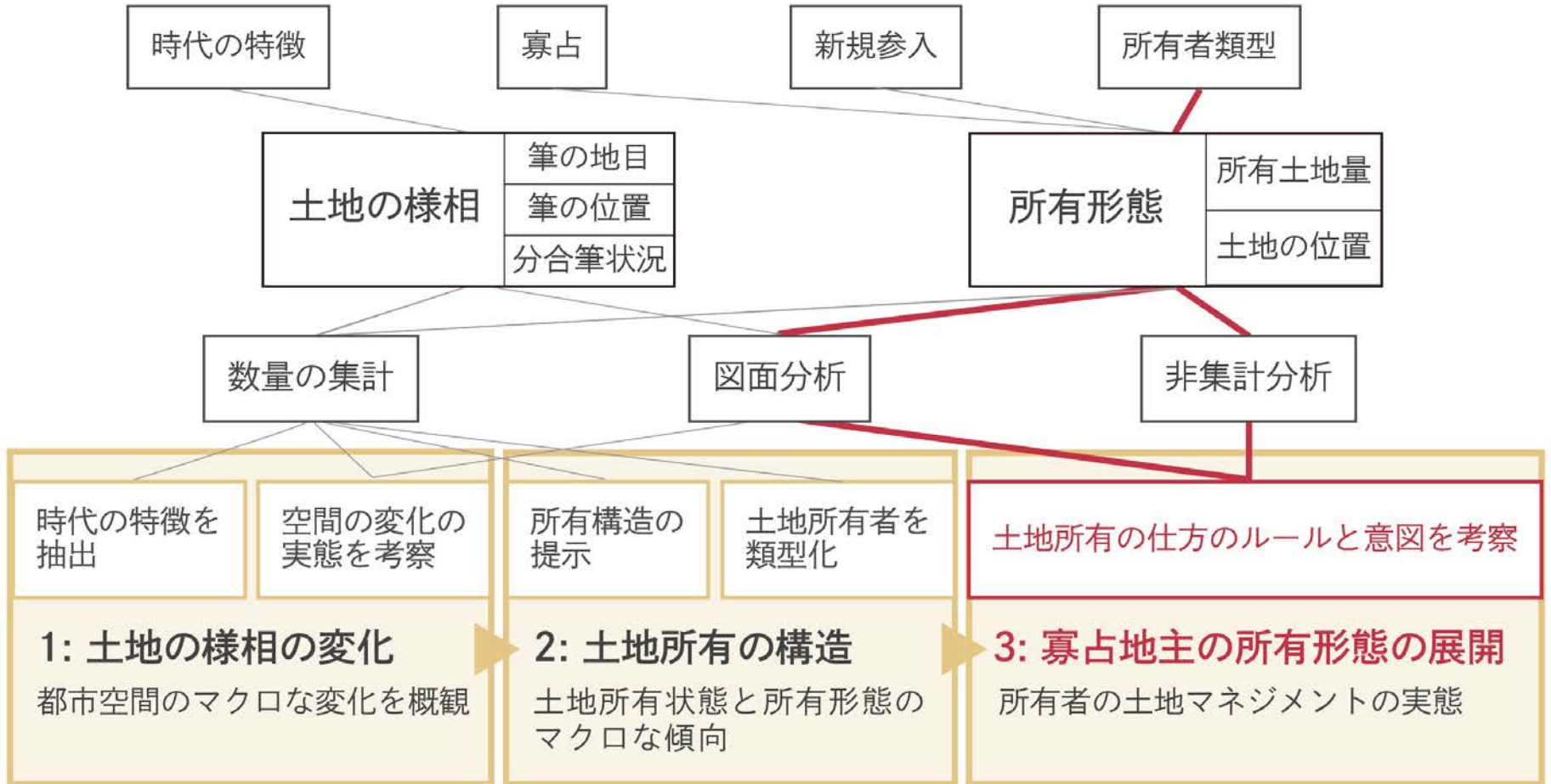
図：年代ごとの所有面積と順位の両対数グラフ



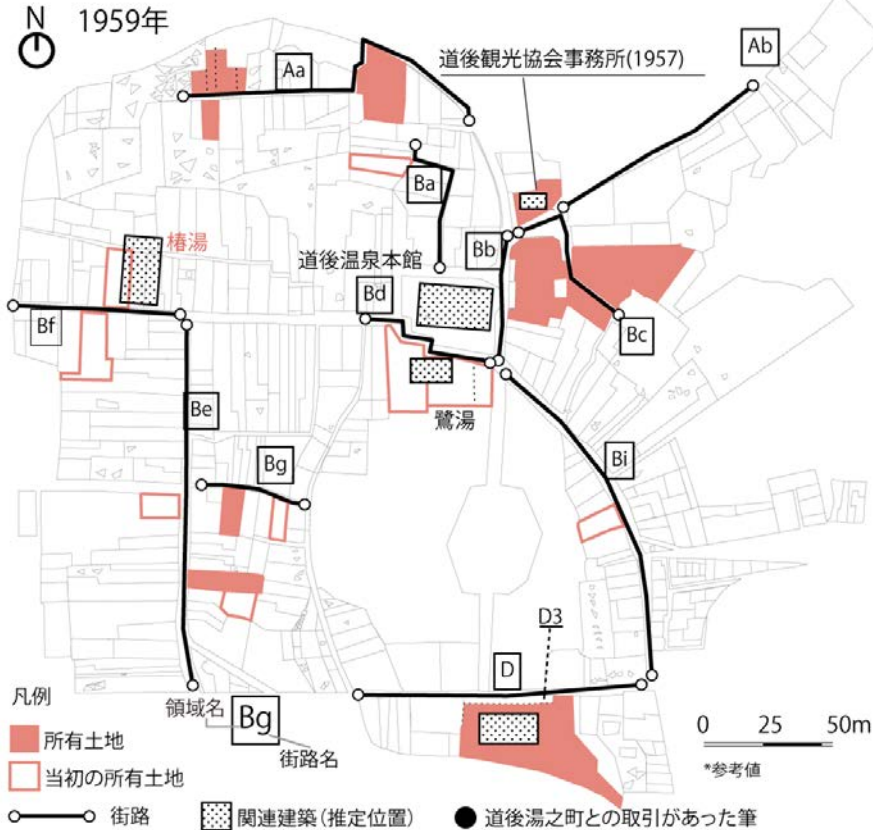
2-2 上位地主の構成



上位地主の半数が更新、3割が長期的に所有



3: 寡占古参地主の土地所有の展開



A: 山手 / 後背地

街路a	平均面積:42.13 坪
地番	取引所有者類型
Aa1	その他→
Aa2	その他→
Aa3	類型1→
Aa4	類型1→
Aa1-1	道後湯之町→
Aa2-1	道後湯之町→
Aa2-2	道後湯之町→
Aa3-1	道後湯之町→
Aa5-1	道後湯之町→
Aa6	合筆
Aa7-1	道後湯之町→
Aa7-2	道後湯之町→

街路b	平均面積:50.77 坪
地番	取引所有者類型
Ab1-1	道後湯之町→
Ab2	道後湯之町→
Ab3	道後湯之町→

B: 街場

街路a	平均面積:18.00 坪
地番	取引所有者類型
Ba1	→類型1
Ba2-2	類型1→ →類型2
Ba3	その他→ →類型2

街路b	平均面積:36.35 坪
地番	取引所有者類型
Bb1-4	道後湯之町→
Bb2-1	道後湯之町→
Bb3-1	道後湯之町→
Bb4-1	道後湯之町→
Bb4-2	道後湯之町→

街路c	平均面積:100.37 坪
地番	取引所有者類型
Bc1-1	道後湯之町→
Bc2	→道後湯之町→
Bc3	→道後湯之町→

街路d	平均面積:83.60 坪
地番	取引所有者類型
Bd1-1	→道後湯之町
Bd1-2	→道後湯之町
Bd2	→道後湯之町
Bd3-1	類型2→ →道後湯之町
Bd4-1	類型2→ →道後湯之町

街路e	平均面積:51.50 坪
地番	取引所有者類型
Be1	→類型4
Be2-1	類型3→ →類型1
Be3	合筆
Be4-1	→その他
Be4-5	分筆

街路f	平均面積:55.50 坪
地番	取引所有者類型
Bf1-1	→類型3
Bf2	→道後湯之町

街路g	平均面積:36.00 坪
地番	取引所有者類型
Bg1	→類型4
Bg2	→類型4

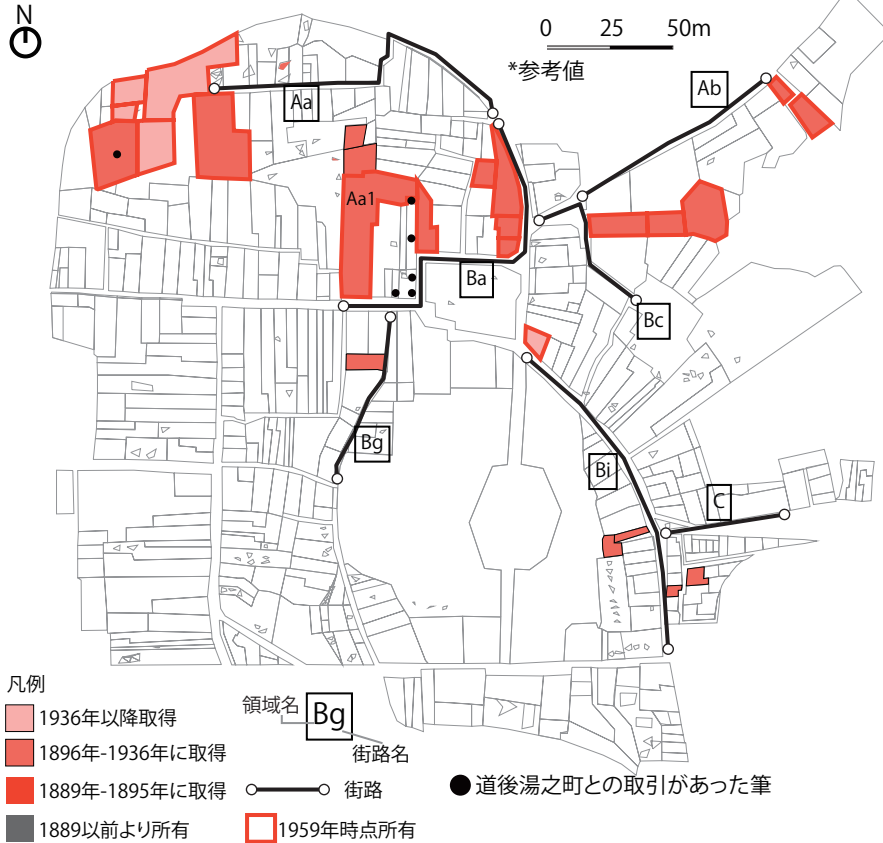
街路i	平均面積:23.35 坪
地番	取引所有者類型
Bi1-3	類型4→ →類型2
Bi2	→類型4

D: 伊佐爾波

平均面積	184.40 坪
地番	取引所有者類型
D1-2	類型1→
D2-2	→その他, 類型4→
D2-3	→その他, 類型4→
D3	→その他, 類型4→
D4-1	→その他, 類型4→
D4-2	合筆 →類型1→
D4-3	→その他, 類型4→
D5-1	→その他, 類型4→
D5-2	→類型1→
D5-3	→その他, 類型4→

- 地域内での分散的な所有から、土地を特定の領域に集約
- 新築する温泉施設の用地提供→観光資源拡充に寄与
- 町役場や警察署・旅館組合など地域の「寄合地」的空間への供用

3: 寡占新参地主の土地所有の展開



AFT 家

A: 山手 / 後背地

街路a	平均面積:92.28 坪
地番	取引所有者類型
Aa1-2	その他→
Aa1-3	その他→
Aa1-4	道後湯之町→
Aa1-6	道後湯之町→
Aa2-1	その他→
Aa3	その他→
Aa4	類型2→ →類型2
Aa5-8	類型4→ →類型2
Aa6	類型1→ →類型2

街路b 平均面積:35.50 坪

Ab1	類型1→
Ab2	類型1→

B: 街場

街路a	平均面積:36.6 坪
地番	取引所有者類型
Ba1	その他→
Ba2	類型4→
Ba3-1	類型2→
Ba4	その他→
Ba5	その他→

AHD 家

A: 山手 / 後背地

街路a	平均面積:36.6 坪
地番	取引所有者類型
Aa1	類型1→ →類型2
Aa2	類型1→
Aa3	類型1→
Aa4-1	類型1→

街路b 平均面積:16.50 坪

Ab1-1	類型2→
Ab1-2	類型2→

C: 松ケ枝

平均面積:11.00 坪	
C1-4	その他→
C1-11	類型1→

B: 街場

街路a	平均面積:101.40 坪
取引所有者類型	
Ba1	類型1→
Ba2-1	類型1→
Ba2-2	類型1→
Ba2-4	類型1→
Ba2-6	→道後湯之町

街路c 平均面積:71.00 坪

Bc	類型2→
----	------

街路g 平均面積:18.12 坪

Bg1-4	類型4→
-------	------

街路i 平均面積:30.73 坪

Bi1-4	類型1→
Bi2	類型1→
Bi3	類型3→

← 合筆

分筆

- 未開発地, 本館から離れた土地から取得→隣接地の集約
- 新設した地域内道路への土地提供→新たな道路ネットワークの形成

課題

さいごに

今日のまとめ

- ① 史料の収集指針（の一例）を知る

汎用性が高く，出自が明確なデータを基礎資料に

- ② 収集した史料の扱い方の例として，デジタル化のプロセスを知る

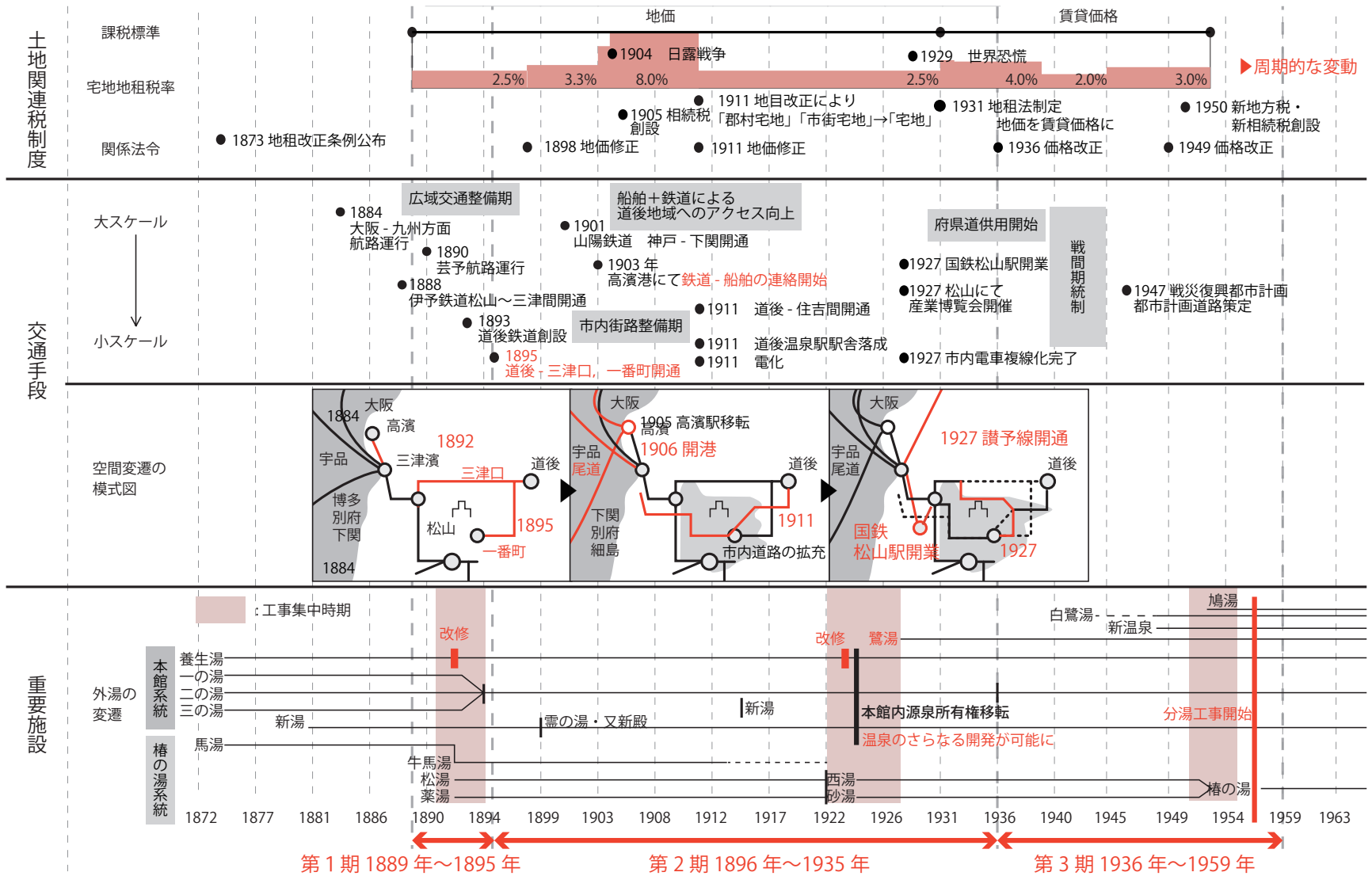
- ③ デジタル化した史料の分析の方法を知る

同時点での分析，複数時点の比較分析，
特定の対象の追跡記述，史料を複数組み合わせた考察
etc...

さいごに

- 地道で丁寧な作業の時間が長いですが、グッとこらえた先に面白い発見があるので、まず手を付けるのが肝心です
- 史料を収集していくうちに「ちゃんと保管してくれてありがとう」「整理してくれた人ありがとう」「綺麗な字で書いてくれてありがとう」という先人に対する感謝の念が湧き上がってきます(マジです、歴史研究の醍醐味だと個人的に思っています)
- 素直謙虚感謝で楽しく研究しましょう
- わからない事があれば聞いてください(メール>Slack>LINE)

おまけ 十次回予告



図：明治中期から昭和中期の道後地区の概況

おまけ十次回予告

- ・ 前スライドの年表は以下の参考文献を元に作成しています

道後温泉事務所『伊豫道後温泉案内記』1908, 発行所不明.

椿南松田卯太郎編『新編温泉郡誌: 大典紀念』1916, 松山石版印刷所.

神田外茂夫『大阪商船株式会社五十年史』1934, 大阪商船株式會社

松山観光協会『松山道後三津遊覧手引: 附旅館商店案内図昭和23年最新版』1948, 関印刷所.

道後温泉事務所『道後温泉観光編』1957, 道後温泉事務所.

「道後温泉」編集委員会『道後温泉増補版』1982, 松山市観光協会.

松山市史料集編集委員会『松山市史料集 第十一巻 近・現代編3』1983, 松山市役所

伊予鉄道編『伊予鉄道百年史』1987, 伊予鉄道.

道後温泉本館調査委員会『道後温泉本館の歴史』1996, 松山市.

池田祥三『わすれかけの街: 松山戦前・戦後』2002, 愛媛新聞社.

鮫島信行『日本の地籍: その歴史と展望』2004, 古今書院.

- ・ 次回は文献調査と史料批判, 実測の方法, 表現について話す予定です.